



小樽商科大学 広報誌 Hermes courrier

ヘルメス・クーリエ

2008. November

No. 21

学生連絡
就職支援

利用時間
月～土 8:30～
＜図書室・教員・学生事務課＞

特集：一日教授会
あなたとともに考える
商大のマスタープラン1



「出世前広場ミュージアム」
12月1日にオープン予定！3
「地域再生システム論」が開講されました
3 大学公開シンポジウムを開催4
熱中症フォーラムを主催しました

海外協定校シリーズ
忠南大学（韓国）5
シリーズ先生紹介 第17回
乙政 佐吉 准教授6
INFORMATION7

あなたとともに考える商大のマスタープラン

小樽商科大学は、地域との絆を深めることを目的に、6年前より毎年「一日教授会」を開催し、広く市民の方々にご参加いただけてきました。そこで賜った貴重なご意見やご要望は、たとえば駅前プラザ「ゆめぼーと」や夏の「納涼ビアガーデン」として実を結び、市民の皆さまとの一層の交流の場を生み出すことができました。

今回の特集では、これまでの歩みをポスターで振り返りながら、去る10月16日に小樽グランドホテルにて開催された第7回「一日教授会」の様相を紹介します。

第1部

学長報告とゲストスピーチ

第一部では、まず学長が「小樽商科大学の現況と将来構想」について報告を行い、3名のゲストスピーカーにそれぞれの立場から意見や要望を述べていただきました。



小樽商科大学
学長 山本眞樹夫

商大では、法人化の際に策定した6年間の中期計画が平成21年度で終了し、翌22年度から新しい第2期中期計画に取りかかります。また、平成23年には創立100周年の節目を迎えることもあり、ここ2~3年が大きな転換期となります。今回の一日教授会では、次の100年に向けた商大のあり方を思い描くために、市民の皆さまのお知恵をお借りできればと思います。私が抱くマスタープランは次の通りです。

- 1 学部教育の充実** 本学は、大学院博士課程、ビジネススクールの設置により、大学院を含めた全体的、総合的な教育課程を整備したところです。次に考えているのは学部教育のさらなる充実で、語学を含む教養教育と専門基礎教育の徹底を図り、せまい枠にとらわれることなく、芸術や文化を深く理解し、人間としての魅力を高める教育を行います。
- 2 全国から学生が集まる大学** 現在96%が道内出身の学生ですが、以前のように北海道のみならず全国から様々な背景を持つ学生が集う大学にします。そのために、学生寮の復活を検討しています。
- 3 学生・市民が憩い、誇りに思えるキャンパス作り** 学生や教職員が親切心にあふれ、市民や観光客が気軽に訪れることのできる、皆に開かれたキャンパスを作ります。

小樽潮陵高等学校
校長

尾留川安彦氏



私は4月に赴任したばかりで小樽や商大の現況はよくわからないのですが、門外漢なりに商大のイメージを述べさせていただきます。

まず、札幌で高校生だった頃は、商大は「北大と並ぶ経済・商学分野の雄」でした。教員になってからは、商大出身の優秀な英語の先生が多いことから「語学に強い大学」というイメージをもちました。しかし、法人化以降は北海道では北大の一人勝ち状態で、他の大学は印象が薄い感じです。知名度において地方単科大学が不利なのはわかりますが、それにしても宣伝が上手ではないと感じています。

山本学長の構想について、1(学部教育の充実)については大賛成です。本来、基礎教育は高校で行わないといけないのですが、大学でも基礎的な教養教育を充実させることは必要です。特に語学教育は重要でしょう。2(全国から学生が集まる大学)についても賛成です。活性化のためには学生の4割は道外・国外から来なくてはいけないと思います。ただ、3(学生・市民が憩い、誇りに思えるキャンパス作り)については、よいことではありまじょうが、むしろ大学の使命は研究と教育であり、このことは譲れないと思います。また、商大は小樽が誇る大切な文化でありますから、小樽が学生にとって住みやすい街となるよう市民も協力して欲しいと思います。

利尻屋みのや
代表

籾谷 修氏



今日は、北海道では売れない昆布を今では年間50トン、3億5000万円売り上げる当社の話から、何かをつかんできただけだと思います。

「経営」を考えた場合、本質は零細企業も自治体も大学も大差はないと思います。今は大学も差別化を図り、知名度を高める戦略を持たなければ生き残れません。そのためにはまず、広告・宣伝が絶対に必要です。

宣伝にはお金をかけずにするものと、お金を惜しまないものがあります。お金をかけない広告に、キャッチコピーがあります。当社の場合、商品開発、商品名や店舗デザイン、お客さまとの会話、さらにはホラ話まで含めて戦略的宣伝としてとらえ実行した結果、客が客を連れてくるようになりました。またお金を惜しまない宣伝としては、試供品を大量に無料配布しました。その商品が現在では全販売量の半分を占めています。

私がこれまでやってこられたのは、「戦略」を意識的に考え、行動に移せたことが大きいと考えています。その戦略の中では「差別化」と「知名度向上」が大きな鍵となります。こうした手法は、大学経営にも生かすことができると思います。

FMおたる
総合プロデューサー

渡辺 大助氏



私は高校までは小樽に住み、大学で上京し、福島放送局に就職しましたが、この間、商大の存在を少なからず感じていました。

東京にいた大学時代、「小樽の女よ」という歌で知られていた小樽は、私たち学生の間では「小樽商大(小樽高商)の小樽」でもありました。また、福島でも小樽商大(高商)出身者が多く活躍しており、商大出身の職場の先輩に聞くと、これは学舎の立地環境と因果関係があるとのことでした。実際、地獄坂の頂上からの眺望やはっきりとした四季など学問にうってつけの良い環境がそろっていると思います。

しかし、時代は変わり大学は、学生に対して10代後半から20代前半という大切な時期を小樽に住み、商大で学ぶ意義を理解してもらう必要があります。自らの感性を磨くためには、様々なよいもの、たとえば歴史、芸術、文化の面で一定の評価を受けた素晴らしい作品に触れることが重要です。商大はそれができる環境にあります。また、中高年者が新しいことを気軽に学べる多角的な講義も提供して欲しいところです。例えば、海外からの観光客とちょっとしたコミュニケーションが取れるような、語学の講座があればいいと思います。

今後商大には本州や外国からたくさんの方を集めて、地方の学び舎としての存在感を出していくことを期待します。われわれも地域コミュニティのFMとして、できるかぎり協力したいと考えています。

第2部 質疑応答

第二部では、第一部での学長報告・ゲストスピーチを踏まえてフロアと活発な意見交換が行われました（司会：和田健夫総務担当副学長）。

学長：ゲストスピーカーの方からいただいた意見に共通するのは「PR不足」という点でした。大学がPRを考え出したのは法人化以降ですので、確かにまだまだ不足していると思います。東京での大学説明会で、参加された高校教諭から「商大はよい大学だと思いが北海道にまで行く意義がよくわからない」と言われたことがありましたが、青春時代を小樽で過ごす意義をもっとアピールする必要があると感じています。これから戦略を考えるに当たり、お三方のご意見を参考にさせていただきますたいと思います。

司会：大学としてアピールについて具体的な方策は何かありますか？ また、北大との差別化についてはどのようにお考えですか？

学長：難しい質問です。年間400億の予算をもつ北大や900億の東大にわずか15億の商大が直接ぶつかることはできません（苦笑）。逆に小回りがきく小規模大学であることのメリットを最大限に生かし、「小規模名門大学」を目指すべきと思います。

司会：尾留川先生にお訊きします。高校から見た商大のイメージはどのようなものでしょうか。

尾留川氏：地元なので、よいイメージはあるとは思いますが。しかし、道外の私立大学の関係者は、大学をアピールするために高校を訪問しにやってくる。商大もそういう活動を行ってはどうか。



司会：商大は少ない予算で対外的なアピールを行っています。その点、箕谷様のご経験から何かアドバイスをいただけませんか？

箕谷氏：今を戦時ととらえるなら、安易に実行できることよりも全国に注目を浴びる事業に着手することが大事だと思います。「小樽市の経済を立ち直らせるプロジェクト」を立ち上げ、やり遂げたなら、きっと「世界の大学」になれるでしょうし、政府はモデルケースとして応援することでしょう。

フロア（卒業生）：商大は卒業生の就職率や出世率が高く、そのことは誇らしく思っています。しかし、商大が生き残っていくためには、サラリーマンだけではなく、小樽で事業を興し街を活性化させるような起業家を育てて欲しいと思います。

学長：本学では学部教育において語学と教養を徹底する一方で、ビジネススクールでは、主に道内の社会人を対象に、道内で起業して欲しいという理念の下に教育を行っています。立ち上げからまだ4年ですが、小樽で例えば観光を軸とした企業が一つでも成功すれば、その後も続いていくと思います。

フロア：大学を会社になぞらえると、経営が行き詰まったときは内部だけで考えてもダメで、言いにくいことを遠慮なく言える社外取締役の存在が重要になります。

学長：本学の経営評議会は、メンバーの過半が学外者で、監事についても外部の方をお願いしています。ただ、外部の意見を取り入れる制度は整えたものの、有効に活用するにはまだまだ工夫が要ります。

司会：道外から学生を集める件で具体的な提言はあるでしょうか？

渡辺氏：小樽は古くから様々なドラマの舞台となってきましたし、よい景色や北の学舎といった雰囲気豊かなエレメントのある小樽には今でも人をひきつけるパワーがあるはずです。また商大を修学旅行のコースにいられて高校生と在学生在が接触する機会を作って欲しいと思います。

一日教授会 過去6回までの歩み



地域と共に生きる小樽商科大学がこれから目指すもの
2003年3月13日
道新ホール



地域と共に進める小樽商科大学の国際交流
2004年3月5日
道新ホール



言葉せたらおう！
街から見た商大
2005年3月1日
道新ホール



街の振興と活性化
おたるの元氣を取り戻せ！
2005年10月20日
小樽グランドホテル

フロア：本州からの学生が減少した理由を大学側は分析しているのでしょうか？

司会：道外からの学生が減少し始めたのは、約30年前に大学共通一次試験が始まり、入試制度が変更された頃と認識していますが、今後更に分析していきたいと思います。

フロア（学生）：学生からみると、これまで行われた商大生主体のプロジェクト（カフェ・生協の商品企画・YOSAKOIなど）をもっと学内外にアピールする必要があると思いますし、こうした活動が起業家の育成につながると思います。また、実践的な教育方針を

もっとPRすることができれば、学生が集まるのではないのでしょうか。

司会：尾留川先生にお聞きしますが、高校生の立場から見て、本州から北海道へ来たいと思わせるためには、どのようなことが考えられるのでしょうか。

尾留川氏：大学選びはまず学力と偏差値でしょう。それに加えて、本州の学生が北海道に対して抱くイメージ（広い、大きい、ロマンがあるなど）があります。そういう中で小樽が頭に浮かぶかどうか鍵になります。小説やドラマなどにそのきっかけとなるものがあればいいと思います。修学旅行生を商大に呼び込むことも効果があると思います。

学長：様々な厳しいご指摘、温かいご意見をいただきありがとうございました。修学旅行生を呼び込むなどの提案はすぐにでも実現できそうです。今後とも本学をご支援いただければ幸いです。

このように、本年の一日教授会では大学のマスタープランをめぐり、有意義な意見交換がなされました。来年も開催する予定ですので、ぜひあなたも「一日教授会」のメンバーとなって、本学を応援していただければと思います。



街の振興と活性化
おたるの元気を取り戻せ！
2006年10月27日
小樽グランドホテル



商大生の主張
～小樽をもっと盛り上げよう～
2007年10月26日
小樽グランドホテル

TopiCs

トピックス

「出世前広場ミュージアム」 12月1日にオープン予定!

小樽市堺町通りのその名も「出世前広場」に、小樽の繁栄を築いた偉人や企業を紹介する「小樽の若き獅子達」が12月1日開館する予定です。このミュージアムは小樽ゆかりの先人達の業績や遺産を展示し、もって次代を担う若者達へのメッセージとすることを目的に、利尻屋みのやの簗谷代表の発案の下、小樽市内の企業約10社が協力して開設するものです。経済界を中心に多くの人材を輩出してきた本学もその趣旨に賛同し、この度、ミュージアムに出展する運びとなりました。展示の内容は、創立の経緯から今に至る本学の歴史や、卒業生の小林多喜二、伊藤整の紹介をメインに、3～4ヶ月毎に新しくする予定です。

この辺りは運河と並んで修学旅行生も多く訪れる観光スポットですので、そういった未来の《若き獅子達》にも小樽商大の存在をアピールするよい機会になればと考えております。



12月1日オープン予定の「出世前広場ミュージアム」

NEWS

「地域再生システム論」 が開講されました

商大生と室工生が地域の再生を考える

小樽商科大学と室蘭工業大学が連携し、内閣府の協力を得て開講する「地域再生システム論」が、平成20年9月20日から23日の4日間、室蘭工業大学を会場として行われ、両大学の学部学生、大学院生及び一般市民等、計90名が受講しました。この科目は今年が2回目、昨年は小樽商科大学で開講されました。

この講義では、地域再生、まちづくりの最先端で活躍されている実務家や研究者を講師に招き、産業の取り組み、学術的分析方法、国家の戦略的視点などをそれぞれ提示していただき、これらの関係を整理しながら、受講



李濟民先生（本学教授）の授業風景

生の皆さんに実現可能な地域再生の方策をシステム論的に考えてもらうことを目的としています。

プログラムの最後では、学生が9つのチームに分かれ、室蘭市、伊達市、登別市の「ものづくり」、「観光」、「ブランド」についてディスカッションを行い、それぞれが検討した地域再生策を発表しました。講習会に出席した自治体関係者等からは、学生が策定した地域再生策について貴重な意見をいただき、実に有意義な4日間となりました。

講習会に出席した商学科3年生山中千亜希さんのコメント

私はこの夏季集中講義の「地域再生システム論」に参加したことで、地域再生にたずさわる様々な講師の方々の講義を受け、今までにない視点から地域の問題について考えを深めることができたと思います。

また、その講義を参考にしながら、小樽商大と室蘭工大の学生と一緒にグループディスカッションを行い、まとめた内容をプレゼンテーションしたことは、学年や文理異なる学生同士が協力して一つの事を考える貴重な体験でした。



ディスカッションの司会を務める山中さん

3大学公開シンポジウムを開催 地域と つながる 大学 地域を つなぐ 大学

本学ビジネス創造センター（CBC）、福島大学地域創造支援センター（CERA）、滋賀大学産業共同研究センター（JRC）及び地域連携センター（CCP）は、いずれも社会科学系国立大学に設置された地域共同研究センターであり、活動領域や社会的な役割を同じくすることから、定期的に情報交換会を行っています。

今年は、本学が開催校となり平成20年9月29日に本学ビジネス創造センター会議室において情報交換会が行われ、各大学の地域共同研究センターの現状や課題について報告がなされました。

また、同日の午後からは会場を小樽市民センターマリホールに移して、公開シンポジウム「地域と つながる 大学、地域を つなぐ 大学 ～地方3大学の取り組み～」を開



情報交換会（本学CBC会議室）

催しました。

シンポジウムでは、各大学のセンター紹介の後、それぞれの地域の先進的・特徴的な取り組みについてのパネルディスカッションと意見交換が行われました。

本学の海老名誠ビジネス創造センター長の他7名の各大学センター長及び関係者がパネリストとして発言し、企業・団体・一般市民等約50名の参加者が熱心に聴講する有意義なシンポジウムとなりました。



公開シンポジウムで発言する海老名センター長（市民センターマリホール）

熱中症フォーラムを主催しました

サミットの成果を踏まえて温暖化を考える

今年の夏は、7月の洞爺湖サミットに関連して、道内の各地で環境問題を考えるフォーラムや講演会などが行われました。本学も去る8月9日（土）にホテルライフオート札幌において、札幌医科大学と東海大学の協力を得て、市民向けに「熱中症フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、この夏、北海道でもしばしば耳にした「熱中症」をキーワードに、その予防を啓発するとともに、地球温暖化防止の重要性を知ってもらうように企画されたものです。フォーラムの内容は以下のとおりで、当日は約80名の市民が参加し、皆さん熱心に聴講していました。



花輪啓一先生（本学教授）による講演

第一部 環境と温暖化の部

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 環境問題としての地球温暖化 | 村山 貢司（元NHK気象キャスター） |
| 2. 温暖化による北海道への影響 | 南 秀樹（東海大学 生物理工学部 准教授） |
| 3. 温暖化と健康問題 | 山蔭 道明（札幌医科大学 医学部 講師） |

第二部 温暖化と熱中症の部

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 温暖化と熱中症 | 小野 雅司（国立環境研究所 環境健康研究領域 室長） |
| 2. 熱中症予防対策の現状と問題 | 朝山 正己（中京女子大学 健康科学部 教授） |
| 3. 北海道でも頻発する熱中症 | 花輪 啓一（小樽商科大学 商学部 教授） |



忠南大学の図書館

海外協定校シリーズ ③

忠南大学(韓国)

忠南大学は、ソウルからKTX（韓国高速鉄道）で約50分南に位置する大田（テジョン）市にあり、約2万人の学生が在籍する国立大学です。国際交流も盛んで、27ヶ国に95の協定大学があり、デュアルディグリープログラム（複数学位制度）なども提供しています。忠南大学の14学部の内、小樽商科大学は経商大学（経営経済学部）と平成5年から学生交換協定を結び、順調に留学生を受入れています。

また、忠南大学と小樽商科大学は研究者の交流も盛んで、

平成19年度からは、小樽商科大学、忠南大学、そして中国大連市にある東北財經大学がそれぞれ相互に協定を結んでいること



経商大学校舎



国際シンポジウムの様子

から、持ち回りで「3大学国際シンポジウム」

を開催することになりました。平成20年度は、忠南大学において第2回目のシンポジウムが開催され、ビジネスのグローバル化とローカル化をテーマに、公演やパネルディスカッションが行われました。

協定締結校一覧（平成20年度）

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. オタゴ大学（ニュージーランド） | 11. オグレスープ大学（アメリカ合衆国） |
| 2. 忠南大学（大韓民国） | 12. サウスダコタ大学（アメリカ合衆国） |
| 3. ウェロンゴン大学（オーストラリア） | 13. ミューレンバーグ大学（アメリカ合衆国） |
| 4. ウェスタンミシガン大学（アメリカ合衆国） | 14. シェフィールド大学（英国） |
| 5. 東北財經大学（中華人民共和国） | 15. ピフロスト大学（アイスランド共和国） |
| 6. バイロイト大学（ドイツ連邦共和国） | 16. ブルゴス大学（スペイン） |
| 7. ボールセザンヌ/エクス=マルセイユ第三大学（フランス共和国） | 17. ベルリン経済大学（ドイツ連邦共和国） |
| 8. 蘭州大学（中華人民共和国） | 18. 成均館大学校（大韓民国） |
| 9. ロシア極東国立総合大学（ロシア連邦） | 19. ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学（ベトナム社会主義共和国） |
| 10. ウィーン経済大学（オーストリア共和国） | |

（締結年度順）



おとまさ さきち
乙政 佐吉 准教授

商学科・会計学講座

- 平成 6年 神戸大学経営学部卒業
- 平成 16年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了
- 平成 16年 神戸大学情報・評価室助手
- 平成 17年 小樽商科大学商学部助教授
- 平成 19年 小樽商科大学商学部准教授

先生の略歴について教えてください。

乙政：私は生まれも育ちも大阪です。1994年3月に神戸大学経営学部を卒業して、松下物流（本社大阪）という松下の物流子会社（現在はパナソニックロジスティック）に就職しました。勤務地は埼玉県越谷市でした。仕事は経理でしたが、支店の経理なので総務も人事も何でもやりました。

退職して無職の時期が1年半あり、1999年4月に神戸大学大学院経営学研究科修士課程に入学しました。2004年3月に博士課程を修了して、神戸大学情報・評価室の助手になりました。3年契約でしたが、商大に就職が決まったので、1年でやめました。2005年4月から商大に勤めていて、現在4年目です。

先生はどのような研究をされているのですか。

乙政：分野としては管理会計です。会計とはお金勘定ですが、それを企業内部の経営者、経営管理者（社長・部長・課長など）が意志決定をする際に役立つ情報を提供するものです。その中にはいろいろな仕組みがあり、私は1994年にアメリカで発表されたバランス・スコアカード（BSC）というものを研究対象としています。

「バランス・スコアカード」とは何ですか。

シリーズ
先生紹介
第17回

バランス・スコアカードの研究は「トリビアの泉」です

今回は、本学のBarrelから高頻度で利用された文献第1位に輝いた商学科の乙政先生です。注目を浴びている先生の研究内容や、学部・大学院教育などについてお話を伺いました。

乙政：それは会計の仕組みですが、財務的指標だけでなく、非財務的指標といって、物流単位で数えられるもの、kgや枚数や回数や比率など、お金で換算しない指標なども経営に使いましょ、という仕組みです。長期的に取り組まないといけないような品質管理を重視している企業であれば、マネージャーに対して財務的指標で評価してしまうと、短期的な行動に走ってしまうので、非財務的指標を使ってあげないと長期的には企業全体がよくない状況に向かってしまいかねないのです。長期的に何かをしようとする企業や、従業員を育てようとする企業は、BSCを導入している傾向があるといえます。

企業調査もされているのですか。

乙政：そうです。本社の経営企画室などに行きます。東証・大証一部上場企業が中心です。調査対象としているのは、基本的にメーカーです。電気系、自動車系、銀行などいろいろあり、サンプルは5～6社です。

先生の研究テーマはおもしろそうですね。

乙政：BSCはおもしろいです。テレビ番組の「トリビアの泉」のように、へ～楽しい、という感じです。長年やっている、そこから一歩抜け出す瞬間があったりして、それがおもしろいのです。BSCというテーマでさまざまな研究ができるので、私はこの10年、どこに終わりがあるのかなと思いつつやっています。私の中で結論が出て、自分が納得できれば終わりだと思いますが、まだ疑問が出てきますので、疑問がある限り、終わらないでしょう。

先生が担当されている授業は？

乙政：今年度は、学部で「管理会計論」を3年生と4年生に教えています。BSCも授業内容のひとつとして教えています。大学院修士課程では「管理会計論」を、博士課程で「現代管理会計情報特論」も担当しています。ビジネススクールで「予算管理と業績評価」も担当しています。私は、商大でいちば

ん忙しい先生だそうですね(笑)

学部ゼミはどうですか。

乙政：赴任1年目から担当していますが、2期生が卒業したばかりです。ゼミ生は、3年生も4年生も13人です。

管理会計全般で、3年生は管理会計をテーマに輪読をして、それに関連する課題を出したりしています。学んだことを使って、例えば学祭出店計画案を提出させるなどです。

4年生は卒論を書かなくてはならないのですが、テーマはまったくの自由です。会計以外のテーマをやる学生がほとんどです。テーマは何でもよいので、自分で疑問を持ち、問いを立て、自分で解くということができれば、それは社会に出ても役に立ちます。

小樽にはどのような印象をおもちですか。

乙政：もっと栄えている街だと思っていました。何が困るかということ、独身で料理もしないので、夜10時を過ぎると食べる店がなくなることです。

雪には驚きましたが、今、朝里に住んでおり、車ですぐにスキー場へ行けますので、スキーを楽しんでいます。

小樽は人がおだやかで、優しい人が多いので暮らしやすいです。

最後に、学生へのメッセージを一言お願いします。

乙政：商大生は素直な子が多いですね。神戸大学では自分が学生でしたので、比較対象にはならないのですが、そう感じます。学生時代は、自分のやりたいことをやるのがいちばんだと思います。

Barrel（小樽商科大学学術成果コレクション）とは、本学教員が発表した論文や記事などを本学の学術成果として保管し、広く利用していただくことを目的としたサービスです。収録文献はどなたでもご覧になれます。



Barrel
学術成果コレクション

URL <http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp>

INFORMATION

平成21年度入学試験日程のお知らせ

商学部 (昼間コース・夜間主コース)

選抜区分	コース	出願期間	選抜期日	合格発表
推薦入学	夜間主	20.11.4(火) ~11.11(火)	20.11.22(土)	20.12.4(木)
社会人特別選抜				
推薦入学	昼間	21.1.15(木) ~1.22(木)	センター試験と書類審査	21.2.6(金)
帰国子女・中国引揚者等子女・私費留学生特別選抜			21.2.11(水)	21.2.19(木)
専門高校・総合学科卒業生選抜	昼間	21.1.26(月) ~2.4(水)	21.2.25(水)	21.3.6(金)
一般選抜(前期日程)	昼間・夜間主		センター試験と書類審査	21.3.23(月)
一般選抜(後期日程)	昼間			

東京にも試験場を設置します。

大学院商学研究科 (アントレプレナーシップ専攻・現代商学専攻)

選抜区分	出願期間	選抜期日	合格発表
アントレプレナーシップ専攻 (組織推薦・指定日選抜)	20.11.17(月) ~11.27(木)	20.12.14(日)	20.12.18(木)
アントレプレナーシップ専攻	21.1.5(月) ~21.1.15(木)	21.2.1(日)	21.2.13(金)
現代商学専攻 【博士前期課程】【博士後期課程】	20.12.22(月) ~21.1.8(木)	21.1.31(土) ~2.1(日)	21.2.13(金)

学生募集要項の請求方法など
入学試験に関するお問い合わせは、次の担当までお願いします。

入試課入学試験係 TEL: 0134-27-5254
E-mail: nyushi@office.otaru-uc.ac.jp

商学部入学試験に関する情報: <http://www.otaru-uc.ac.jp/hnyu1/>
アントレプレナーシップ専攻に関する情報

: <http://www.otaru-uc.ac.jp/master/bs/index.htm>

現代商学専攻に関する情報: <http://www.otaru-uc.ac.jp/master/gs/gs.html>

商大グッズ



商大グッズ好評販売中!



商大ラーメン「深醤油」2食入り 550円
高商ラーメン「久塩味」2食入り 550円
商大ラーメン・高商ラーメン
各2食入りセット 1,260円

純米吟醸酒「小樽緑丘」
1本500ml 1,600円



酒饅頭「商大饅頭」
1箱6個入り 600円



商大くんストラップ他 各525円



名刺入れ 1,575円



エコバック 5色 各500円



キーケース 2,100円



シャープペンシルとボールペン 各105円

お買い求め、お問い合わせは小樽商科大学生活協同組合まで
(TEL: 0134-23-2298 FAX: 0134-25-5985)

表示価格は全て税込です。

小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」のご案内

小樽駅から海側へ2分程度歩いた中央通り交差点に、小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」があります。この施設は市民と商大との交流の場として設けられたもので、パソコンの利用や、図書館の本の貸出・返却などができ、また、商大グッズを販売するほか、本学の各種パンフレットや資料もご覧いただけます。会議や講習会などの会場として役立てていただく他、待ち合わせや休憩場所としてどなたでもご利用できますので、気軽に足をお運びください。事前の利用申し込み等につきましては、以下へお問い合わせ下さい。



場所 / 小樽市稲穂3丁目3番1号
(小樽グリーンホテル別館内) TEL: 0134-32-4624
開館時間 / 火曜日~土曜日 13:00~19:30
問い合わせ / 小樽商科大学総務課総務係
(TEL: 0134-27-5206・5207)

商大図書館学外開放のご案内

蔵書総数44万冊を誇る本学図書館の書籍や雑誌を、どなたでも自由に閲覧し、貸出を受けることができます(一部を除く)。利用を希望される方には「図書館利用者IDカード」を発行しますので、運転免許証や健康保険証等、ご本人と確認できるものをご提示ください。



また、市立小樽図書館や駅前プラザ「ゆめぼーと」でも図書の貸出・返却のサービスを行っており、宅配の利用も可能です。蔵書検索等詳しくは以下へお問い合わせ下さい。

開館時間 (通常期間)
月曜日~金曜日 8:45~22:00
土曜日 10:00~19:30
日曜日 10:00~17:00

(春・夏・冬季休業期間)
月曜日~金曜日 8:45~17:00
土曜日・日曜日・祝日 10:00~17:00

問い合わせ / 小樽商科大学学術情報課情報サービス係
(TEL: 0134-27-5273)
URL <http://www.otaru-uc.ac.jp/htosyo1/>

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を
ブログで毎日好評更新中!



<http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/>

編集後記 ヘルメス・クーリエの最新号が完成しました。しかし、私は編集作業の途中に別件で出張をしたり、その出張先から帰ってすぐに風邪をひいたために、本号の完成にほとんど貢献することができませんでした。この場を借りて他の編集スタッフにお詫言いたします。それでも充実した内容に仕上がったのを見て、ホッとしていると同時に、私の存在意義は何だろう、と少し複雑な思いです...。(RN)

編集スタッフ 尾形弘人、中浜 隆、今本啓介、西永 亮

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。以下に下記にお寄せください。

E-mail: kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX: 0134-27-5213

URL <http://www.otaru-uc.ac.jp>



バックナンバーはこちらから
<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/hermes>

誌名の由来

ヘルメス (Hermes) は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神、クーリエ (courrier) とはフランス語で郵便物のことですが「~通信」として新聞紙名等に用いられています。ですから「ヘルメス・クーリエ」とは「商大通信」であるとご理解ください。